

案件（４）OD調査、利用者・市民アンケートの分析の方向性について

- ◆OD調査、利用者・市民アンケートの分析を進めるにあたっては、各調査の特性を整理した上で、分析方法を検討する必要がある。
- ◆OD調査は「路線別」、利用者アンケートは「路線別」、「ゾーン別」、市民アンケートは、「ゾーン別」に掘り下げて分析するためには、アンケートの設問間でクロス集計し、傾向を捉まえる必要がある。
- ◆アンケート分析の基礎となる分析方法の方向性について、確認、意見をいただきたい。

1. OD調査、利用者・市民アンケートの特性

- ◆OD調査、利用者・市民アンケートそれぞれで、調査特性が異なることから、分析の方向性も下記のとおり異なると考えられる。

		OD調査	利用者アンケート	市民アンケート
調査対象		路線バス利用者	路線バス利用者	市民（普段の路線バス利用者以外も含む）
分析事項	現状の交通交通	路線バスの利用区分、利用目的他	路線バス利用者の交通行動、路線バスの満足度他	路線バス利用者以外も含めた交通行動、路線バスの満足度他
	将来（北大阪急行線延伸後）の交通行動	※利用者アンケートによる将来交通行動の分析を活用して路線バスの利用予測	現状の路線バス利用者における新駅の利用意向、交通の転換意向	路線バス利用者以外も含めた新駅の利用意向、交通の転換意向
分析結果を踏まえたアウトプット		<ul style="list-style-type: none"> ・現状の交通行動 ・新駅への交通行動予測（端末交通手段、利用目的、頻度他） ・路線バスの利用予測（行き先、利用目的、頻度他） 		

2. 利用者・市民アンケート分析（クロス集計）の方向性

- ◆アンケートの分析の項目は、大きく下記の4項目と考えられる。
- ◆また、分析項目の結果を得るためには、アンケートの設問間でクロス集計を行い、分析を進める必要があると考えられる。

分析項目	目的	アンケートのクロス集計の方向性
①基礎情報	回答者属性を把握する。	・回答者属性（職業・年代等）
②現状の交通行動（路線バス・オレンジゆずるバスの利用状況も含む）	現状の交通行動として、利用目的、移動手段、頻度、利用状況を把握する。	・目的別の行き先・交通手段 ・目的別の行き先・頻度 他 （職業、目的、行き先、交通手段、頻度のクロス集計）
③北大阪急行線延伸後の交通行動	北大阪急行線延伸後の交通行動として、新駅の利用意向、交通の転換意向を把握する。	・新駅の利用意向 （職業、延伸区間の利用意向、利用する新駅のクロス集計） ・交通の転換意向 （職業、現状の交通手段、新駅までの交通手段のクロス集計）
④バス路線再編の意向	北大阪急行線延伸後のバス路線再編意向を把握する。	・回答者特性別の北大阪急行線延伸後のバス路線再編に対するサービスレベル等の意向
⑤その他	バス路線再編に向けた分析は、上記項目以外にも必要に応じて、分析を進めることとする。	